

近畿病院図書室協議会 ～Kinki
WebcatからKITOcatへ～

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 静岡県医療機関図書室連絡会事務局 公開日: 2016-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 春日井, 泉江 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10271/2711 |

近畿病院図書室協議会～Kinki Webcat から KITOcat へ～

近畿病院図書室協議会 目録サポートチーム
東海地区医学図書館協議会 東海目録ワーキンググループ
名古屋記念病院図書室 春日井泉江

I. はじめに

KITOcat (キトキャット) は、東海地区医学図書館協議会と近畿病院図書室協議会が参加して、2013年4月に本稼働しました。この機会に、近畿病院図書室協議会とその目録について、東海目録との関わりを交えてご紹介します。

II. 近畿病院図書室協議会

1. 概要

近畿病院図書室協議会、英語表記は Kinki Hospital Library Association、略して病図協、または英語の頭文字をとって KHLA と呼びます。設立は1974年で、来年、設立40年をむかえます。事務局は藍野大学中央図書館にあります。機関加盟制で、2013年4月現在の会員数は117機関、年会費は3万円です。

2. 会員

会員の所在地は、名称のとおり近畿の府県が多いですが、関東から九州まで、近畿地区以外の会員もいます。東海地区には13機関いて、このうち10機関は東海目録にも参加しています。会員の施設区分は、病院がほとんどで9割以上を占めますが、大学や専門学校の会員もいます。入会にあたっては、特に所在地や施設区分での制限は設けていません。

3. 活動

病図協では、研修部、編集部、統計調査部、目録サポートチーム、ホームページワーキンググループの各々が、事業活動を行っています。事務局は、総会、監査、役員会、幹事会を開催し、会の運営にあたっているほか、ニュースレターの配信、交流会の開催、電子ジャーナルのコンソーシアム価格の提案、対外活動などを行っています。

4. ホームページ

病図協のホームページ(図1)には、病図協の概要や活動内容、各部からのお知らせ、会員外の方へのご案内などを載せています。こちらのページは、誰でも自由に見ることができます。

昨年9月にリニューアルを行い、ホームページとは別に、会員限定のコミュニティサイトをオープンしました。SNS(ソ



図1. 病図協ホームページ
<http://www.hosplib.info/>

表 1. 所蔵雑誌目録 1975～2004 年

| |
|--------------------------------------|
| 病院図書室医療関係雑誌所在目録 1975 年 |
| 病院図書室医療関係雑誌所在目録 欧文雑誌追加版 1976-1977 年 |
| 医学雑誌総合目録（欧文編）1981 年 |
| 医学雑誌総合目録（和文・国内欧文・華韓編）1984 年 |
| 医学雑誌総合目録（欧文編）第 2 版 1987 年 |
| 医学雑誌総合目録（外国雑誌・国内雑誌）1997 年改訂版 |
| 現行雑誌所在目録 1996・1998・1999・2000・2001 年版 |
| 会員所蔵雑誌目録 2004 CD-ROM 版 |

表 2. KHLA 目録および東海目録の変遷

| | | |
|--------|-------|--------------------------------|
| 1997 年 | 近畿 | 冊子体発行 |
| 2002 年 | 東海 | 冊子体「東海目録」発行 *近畿データ利用 |
| 2004 年 | 近畿 | CD-ROM 版発行 *東海データ利用 |
| 2005 年 | 東海 | 東海目録 WEB 版 (TOMcat) 稼働 |
| 2006 年 | 近畿 | 所蔵雑誌目録 Web 版 (Kinki Webcat) 稼働 |
| 2013 年 | 近畿・東海 | Web 版 (KITOcat) 本稼働 *東海データに統一 |

シャルネットワークサービス) を利用したサイトで、こちらには会員限定で発信したい情報を載せています。

Ⅲ. 所蔵雑誌目録

1. 目録の変遷

1) 冊子体 (表 1)

病図協の目録は、設立の翌年、1975 年に発行された「病院図書室医療関係雑誌所在目録」から始まります。1981 年からは「医学雑誌総合目録」となり、その後も改訂を繰り返して、発行を続けています。冊子体の総合目録の改訂には大変な手間と時間がかかり、発行には数年を要します。しかし、相互貸借を行うにはより新しい所蔵データが必要であり、そのため、総合目録発行の合い間には「現行雑誌所在目録」を発行し補っていました。2004 年に CD-ROM 版の総合目録が発行され、冊子体での目録発行は 2001 年を最後に終了しました。

2) CD-ROM 版・Web 版 (表 2)

1997 年に近畿で、最後の冊子体の総合目録を発行しました。その 5 年後、2002 年に東海目録が初めて発行されました。この際には、病図協の書誌データを提供する形で協力しています。2004 年に近畿で目録を発行する際には、今度は逆に東海から、東海目録発行時に更新されたデータを提供してもらう形で協力しています。このときの目録は CD-ROM 版で、ここからデータで検索ができるようになりました。

その後、近畿・東海ともに Web 目録の作成にとりかかります。先に完成したのは東海で、2005 年に東海目録 WEB 版 (略称: TOMcat) が稼働しています。遅れること 1 年、2006 年に近畿の所蔵雑誌目録 Web 版 (通称: Kinki Webcat) が稼働します。

ここから、各機関で直接、所蔵データや機関情報の更新ができるようになりました。この2つのWeb目録は、稼働当初のプラットフォームはほとんど同じでしたが、その後、近畿で改修を重ねたこと、東海でNACSISデータによる更新を始めたことなどから、別のものになっていきました。

それを統合することになり、2011年より目録サポートチームと、東海目録ワーキンググループと、株式会社ナレッジワイヤが協力して作業を重ね、昨年11月にプレオープンし、今年4月に本稼働したのがKITOcatです。目録を統合する際には、書誌データを統一する必要があり、東海のデータに統一することに決めて作業を行いました。

2. Kinki Webcat から KITOcat へ

1) 電子ジャーナルの登録

Kinki Webcat の稼働から KITOcat へ移行するまでの、2007年から2013年までの1年ごとのデータ数の推移を見ると、登録タイトル数、所蔵レコード数ともに、2010年から2012年にかけて増加しています。これは、2010年から電子ジャーナルの登録を始めたことによります。2010年5月に、メディカルオンラインの所蔵データの一括登録を行い、2010年12月より、電子ジャーナルの書誌マスタの登録を開始しました。電子ジャーナルの登録は、KITOcat への移行後も続けています。

2) 「KITOcat」へのリンク

病図協ホームページ(図1)の真ん中の「KITOcat」のアイコンをクリックすると、KITOcat のホーム画面(図2)に飛びます。

病図協ホームページ(図1)の左端の項目に同じく「KITOcat」とありますが、こちらをクリックすると、病図協ホームページ内の目録ページに行きます。こちらには、病図協からの目録に関する案内や、会員がKITOcatを利用する際の注意事項などを載せています。項目を「概要」「使い方」「Q&A」「ILL 手順&マナー」の4つに分けていて、KITOcatに合うように内容の見直しを行っているところです。

3) ロゴ

2006年にWeb目録の利用を開始した後、会員に募集し、愛称「Kinki Webcat」とロゴ(図3)を決定しました。その後、Web目録だけでなく病図協のロゴとしても使用することになり、病図協の封筒やホームページなどに使用しています。また、発表の際のスライドに入れるなど、会員にも活用してもらっています。

病図協では、Kinki Webcat から KITOcat へ移行した後も、病図協内で使うWeb目録のアイコンにはこのロゴを使用しています。

4) KITOcat の運用

KITOcat は、複数のネットワークが参加する目録システムで、サイトの利用方法は



図2. KITOcat ホーム画面
<https://www.melin.jp/>



図3. 病図協ロゴ

同じですが、運用については各ネットワークで異なります。病図協では、ロゴの使用のほか、機関情報の入力ルールなどを独自に行っています。

IV. おわりに

KITOCat の機関情報の「所蔵公開対象」で、「全ネットワーク会員」または「VISITOR を含む全て」を選択すると、自分が所属しているネットワークの会員以外にもデータが公開されます。KITOCat の雑誌検索の画面で、東海目録会員が「全ネットワーク」を選択すると、病図協会員のうち東海目録会員にも公開している機関のデータも、検索対象に追加され、所蔵していれば結果に表示されます。相互貸借の基本ルールを守った申込であれば、ふだん東海目録の会員に依頼しているのと同じように依頼していただいても構いません。相互貸借ですので、もし可能でしたら東海目録会員の方も、病図協会員に対して所蔵データを公開し申込を受け付けていただけたら、この目録システムの特徴をさらに活かすことができるのではないかと思います。

KITOCat のページに書かれているよう、KITOCat が医学図書室をつなぎ、今後もより良いものに育っていくようお願いしています。目録サポートチームや東海目録ワーキンググループの活動が、少しでもそのお役にたてば幸いです。